

## 婦人科初期研修プログラム

【研修責任者】 小澤 英親

### 【一般目標】

婦人科疾患を有する患者に対し適切に初期対応を行うために、女性診療の特性を理解・配慮し、婦人科の基本的知識と基本的技術を修得する。

### 【行動目標】

1. 女性特有の解剖・生理（排卵・月経周期のメカニズム）を理解する。
2. 婦人科領域の主要疾患の病態と診断、治療を理解する。
3. 排卵障害や月経異常の検査、治療法を列挙でき、思春期、性成熟期、更年期、老年期など生涯にわたる女性のヘルスケアの重要性を理解する。
4. 系統たった一般および婦人科病歴聴取、身体診察、検査の選択、検査結果の解釈、鑑別診断、治療方針の決定、説明をして診療録に記載でき、回診やカンファレンス時にプレゼンテーションや質疑応答ができる。
5. 婦人科救急（急性腹症）について理解し、初期対応ができる。
6. 入院患者の比較的軽度の問題に対して初期対応ができ、必要に応じて上級医と相談し、問題を解決できる。
7. 手術の準備と基本的な手術の介助ができる。
8. 女性診療を行うにあたって患者及びその家族に配慮することができる。

### 【指導内容】

- ・ 一緒に診察を行い、診察手技や超音波検査の技術等を具体的に指導。
- ・ 手術も一緒に行い、基本手技を具体的に指導。
- ・ 患者の臨床上的の問題に対し、解決策を助言。
- ・ 回診時のプレゼンテーション等に際し、疾患の説明、治療戦略の説明など教育的指導。

### 【方略】

主体は、上級医と一緒に診療しながらの実地指導である。  
定期のレクチャーに加えて、必要に応じてレクチャーを行う。

### 【実際の業務、研修】

1. 外来にて病歴を聴取し問診の後、診察や検査を行い、アセスメントの上、診療の計画をたてる。  
（診察には内診、膣鏡診、検査には経膣・経腹超音波断層法が含まれ、対象疾患には子宮、卵巣の良性疾患と悪性疾患も含まれる。）
2. 急性腹症の鑑別および初期対応を行い、その際必要があれば適切な他科との連携を取る。
3. 化学療法をプロトコールに従って実施し、有害事象に対応する。

4. 入院患者の診療も同様に行う。
5. 手術に参加し てその実際を学ぶ。

行った診療行為はすべて遅滞なく診療録に 適切に記載する。